（別紙５－１）

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【授業担当者】

所属/職名: 医学部　教授

氏　　名: 橋口　照人

授業科目名	選択実習
研修先 （大学・国・都市名）	ディポネゴロ大学（インドネシア・スマラン、ジェパラ）、ソウル大学（韓国・ソウル）、マインツ大学（ドイツ・マインツ）、トロント小児病院（カナダ・トロント）、ミシガン小児病院（アメリカ・デトロイト）
研修期間	2019年3月18日　～　2019年7月21日

［研修の目的・概要］

医学科6年生「選択実習」では、大学病院の他に、臨床教授が在籍し指導できる県内もしくは海外の医療機関を学生が選択し、臨床実習を行っている。本科目は、単位取得を要する必修科目であり、興味と必要性を有する科目を自ら選び学ぶことにより、医療に対する、より高いモチベーションを持って、5年生の全診療科で行う「臨床実習」の医学的知識、技能、態度を更に深めることを目的としている。特に海外では、①先進的な医療に接する、②異なる医療システムや体制を学ぶ、③臨床研究を学ぶ、④多様な民族的背景を有する患者や医療スタッフ、学生に接する、⑤途上国での医療を学ぶ、などの目的を付加し、複数の国の医療機関での受け入れを準備し、医療面での地域活性化に資するグローカル人材育成を目的とする実習科目を構築している。「国際的医療とはどのようなものか」「グローバルとは何を言うのか」といった観点からしっかり学習するとともに、語学力が必要であることを必然のこととして体感すること、また四方を海に囲まれた日本と、陸続きの国境を有する国との国際感覚の違いや、同じ学生でありながら、医師になることへの意識や熱意の違いについて考える機会とする。

〔研修の成果〕 ＊事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。

今年度は20名の学生が海外研修を行った。研修先は、インドネシア、韓国、ドイツ、カナダ、アメリカの5か国であった。帰国後、直ぐに全ての学生に対して面接を行った。安全面、生活面においての問題のあった学生はいなかった。全ての学生が研修先のスタッフより心からの歓迎を受け、親切な対応をいただいたとのことであった。窓口となった鹿児島大学医学科の教授の方々のこれまでの先方への善意の結果に他ならない。学生からの報告書には記載されていないが、学生達は国境を越えた教室間の信頼関係に護られていたことを、彼ら、彼女らが例えば10年後に今回の研修を振り返る時に理解すると思う。それこそが本質的には最も大切なことである。その理解、国境を越えた信頼関係というものを次世代に繋いで欲しいのである。

学生の報告書から、異文化の社会から受けた衝撃が強く伝わってくる。それは当然のことであろう。同時に日本で過ごす自分達が恵まれた環境にあることも理解したと思う。研修先の学生達の真剣な姿は、最も立派な教科書になったに違いない。医師は利他的に行動することが必須の職業である。あるいは、その様な医師としての職業ではなく「生き方」を選択したのである。医師免許を取得して、いきなり海外の患者のことを心配できるようになることは無理であろう。まずは、目前の患者に対して尽くすことである。その日々の行動の延長にグローバル化がある。海外研修を行った学生が将来、海外の患者のことも心配するような人材に育ってくれればと願う。更に学生の報告書から伝わってくる観点として「人間教育の大切さ」である。国境を越えて「人間らしさ」が大切であることを理解したと思う。学生の報告書は正直、表面的である。稚拙だというのではない。全て優である。若い学生が海外で学習しうる最大限の情報が込められている。しかしながら、学生に学んで欲しいことは、海外でも病気に悩む患者さん方を診て医師としての心を深めて欲しい。それはつまり、人（患者）の幸せに医師が線を引かないことである。貧しいからといって不幸とは限らない。病気だからといって不幸とは限らない。医師は患者に寄り添うのである。日本のように豊かな国では感じ得ない「人の幸せ」に海外では気付く機会があると思う。

今年度も、鹿大「進取の精神」支援基金事業からご支援を頂き、海外研修を行うことができました。ご寄附を下さった皆様、ならびに鹿児島大学　佐野　輝学長に心よりお礼申し上げます。

〔今後の課題〕

今年度は9月30日に医学科学生の全学年を対象として、海外研修報告会を開催する予定です。本年度の海外研修に参加した学生達からの熱いメッセージを後輩に伝えてもらい、本研修への希望学生が益々増えることを期待しています。また、研修先も更に増やし、学術的、文化的にも多様性を広げたいと思います。最重要なことは、留学中の学生の安全、生活を守ることですので、計画にあたっては、これまで通り十分な期間をかけ、受入先との十分な協議を行った上で進めていきたいと思います。